



CAPP活動に参加する時に、ボランティアさんが着用するユニフォーム。動物は名前を記入したパンダナを巻いて。

飼い主さんが愛犬との暮らしの中で感じる愛おしい気持ちやシヤワセな気分を、訪問先の方達にも一緒に感じてもらう、それがこの活動の魅力です。この素敵なふれあい活動が実現できるのは、「ヒューマン・アニマル・ボンド(人と動物の絆)」が前提にあるから。多くの人は、動物を見て可愛いと感じたり、触れると心が和んだりします。そして動物も、一緒に過ごすことで人間を信頼し、相手を好きになります。

CAPP活動が伝えるのは人と動物の絆

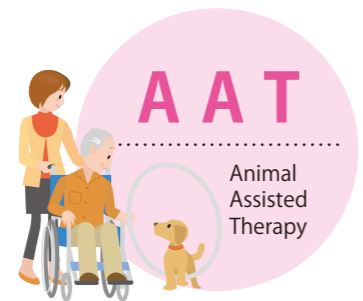


CAPPの3つのアニマルセラピー活動



動物介在教育

小学校や幼稚園といった子どもが通う施設を訪問し、動物との正しいふれあい方や命の大切さを学んでもらうための活動。日常であまり動物と接する機会の少ない子ども、次第にふれあえるようになっていきます。



動物介在療法

人間の医療の現場で、患者の病気の治療を目的に行う、動物を介した補助療法。治療を受ける人によってさまざまな目標が設定されます。医療従事者が中心となり、活動を行います。



動物介在活動

動物とふれあうことで、心が安らいだり、高齢者施設に暮らす人のレクリエーションになったり、生活の質の向上などを目的とした活動。一般的に「アニマルセラピー」と呼ばれる活動の多くがこのタイプです。



笑顔・元気・優しさを育む 動物との“ふれあい”

人と動物をハッピーの輪でつなぐ、CAPP活動をご紹介します

※CAPP=人と動物のふれあい活動(Companion Animal Partnership Program)

適性セルフチェックリストや参加方法はP.18に!



活動中は常に動物の様子を見ながら行うので、もし疲れや変化が見られたら休憩を取るなど、動物がいとも楽しくいられるように配慮されています。

Q 愛犬のストレスにならない?

活動中は常に動物の様子を見ながら行うので、もし疲れや変化が見られたら休憩を取るなど、動物がいとも楽しくいられるように配慮されています。

Q どんな動物が参加しているの?

CAPP活動 Q&A



犬や猫の無邪気な姿を見るだけで心が和みやわらかな毛に触れるとホッとする。そんな動物たちの癒しパワーで、大勢にシヤワセを届けるボランティア活動があります。

動物が持っている癒しパワーでみんながハッピーに





黒くて大きいので、距離の取り方に気を配り、お話しながらゆっくり近づきます。

参加されている飼い主さんにインタビュー

自然に笑顔になれる CAPP活動が私の元気の源です!

【サークルノア(静岡県)】チームリーダー
横山 緑さん & ジル(アフガンハウンド/9才)

私は1994年に初めてこの活動に参加しました。自宅で大と猫を飼っていたので、何か役に立ってくれるのであれば、と思って。それから19年間、私のパートナーである動物達の世代交代もありました。それでも活動の中で出会った高齢者さんやチームメンバー、そして動物達の笑顔が忘れられなくて、辞めることは考えたことがありません。この活動のために週末の予定を調整するほど、大好きなんです。

ジルの気質が向いていて本当に嬉しかったです

こういう活動って人懐っこい犬でないとなかなか思われがちですが、そうでもないんですよ。ジルは愛想はあまりありません。

高齢者さんや施設のスタッフさんの笑顔はやりがいになるし、本当に嬉しい。スタッフさんによると、活動中のお写真を高齢者さんご家族に見せると、その楽しそうな表情や行動にビックリされるそうです。それほどに動物が人間に元気を与えるんだと、私自身も驚きました。

みんなが笑顔でいられるチームを目指して

そして、活動が終わるとチームメンバーも動物達も、達成感でキラキラしてるんです。これからもうそんなチームでいられるよう、気配りを忘れず、安全で楽しい活動を続けていきたいです。

中西大介さん & うさ(MIX/3才)

メイブリーズ(兵庫県)参加

獣医師の私でも、動物達の力にいつも感動します。

私は獣医師なので、普段から多くの動物に接していますが、この活動に参加して、「動物にはこんなにもすごいチカラがあるのか!」とあらためて驚いています。普段はあまり手を動かさない高齢者さんでも、「うさちゃんを取りに行くから投げてくださいませんか?」とお願いすると、ボールを投げしてくれるんですよ! 本当にびっくりします。うさちゃんも「取って来い」を褒めてもらえるのが嬉しくて喜んでくれています。



川名理絵さん & ニコ(ヨークシャー/8才)

サークルノア(静岡県)参加

チームのみんなのおかげで愛犬が活動を大好きに!

もともと私がCAPP活動に興味があり、ぜひ参加したいと、申し込みました。でもニコは想像以上に緊張してしまい、知人などからは「やめた方がいい」という声も。何度か諦めかけましたが、チームメンバーさんがいつもフォローしてくださって、気が付いたらニコ自身が活動を大好きになりました。ニコに触れた高齢者さん達が「良い子だね」「可愛いね」とたくさんほめてくれたことが陽性強化と同じ効果になり、ニコを成長させてくれたんだと思います。



与茂田千鶴子さん & ゆめ(MIX/12才)

メイブリーズ(兵庫県)参加

20年も活動を続けていられるので、覚えていてくださる方がいると嬉しいです。



猪又実香子さん & ぶうあ(タンディメント/8才)

メイブリーズ(兵庫県)参加

障害者施設でも活動。楽しんでおられる姿がうれしい!



市村睦美さん & エビス(トイプードル/3才)

メイブリーズ(兵庫県)参加

みなさんに「可愛い」と言われてエビスも嬉しそう。何より、自分が楽しい!



本庄香織さん & ルナ(キャバリア/5才)

メイブリーズ(兵庫県)参加

人を笑顔にする仕事をした、そう思っていたらこの活動に出会いました。



取材にご協力いただいた皆さん



今回は、静岡県沼津市にある「社会福祉法人 春風会・特別養護老人ホームあしたかホーム」でのチーム・サークルノアさんの活動の様子を取材しました。

部屋中が明るい雰囲気!

2 活動スタート

まずは、自己紹介から。その後、高齢者のみなさんがふれあえるよう、順番にまわって行きます。



レポートを終えて

参加された皆さんのイキイキした笑顔が印象的でした!

高齢者さんに安心してもらえるようにゆっくりと近づいたり、「犬は好きですか?」と問いかけてりと『思いやりのある行動』をボランティア(飼い主)さん達が見ているのを見て、普段の愛犬との生活でもこういった姿勢を大切にすれば、もっと幸せになれるように感じました。

5 ミーティング

愛犬の様子や高齢者さんの様子など、報告し合います。これが今後の活動をより良くするポイントに。活動が終わり、ホットした様子の愛犬も。



PEPPYスタッフが直撃!



CAPP 活動レポート

参加している犬はどんな様子? ふれあったみなさんの反応は? そんな、気になるところを取材してきました。

僕らの活躍を見てね!



1 事前ミーティング & 健康チェック

みんなヤル気満々で、トイレを済ませてから集合。獣医師さんが参加する動物の健康をチェック。体調が悪い時はお休みになることも。



3 いろんな場所でふれあいタイム

高齢者さんと動物の様子を見ながら、膝の上に乗ってなでてもらったり、抱きしめてもらったり。時には個室のベッドの上でふれあうことも。



4 終了! 休憩

「おつかれさま」のオヤツやお水をあげます。





愛犬ともっと仲良くなるために大切なこと

教えて！
戸塚先生

「おうちでもできる！」

これがなければ、楽しくない！

一緒に遊んであげよう

遊ぶなかで「飼い主さんが自分に興味がある」と感じさせてあげて。

愛犬によって好きな遊びは様々。うちの子が大好きな遊び方を見つけてあげましょう。遊びを通して、飼い主さんと犬との信頼関係もグッと深まります。



毎日、愛犬のために適量を

食事のお世話が大切です

愛犬はお世話をしてくれる人が一番好きなんです。

私も朝一番に愛犬・愛猫に食事を与えています。太りすぎたり痩せすぎたりしないよう、適正な体重を維持できる食事管理を。



飼い始めてすぐにスタートしよう

ほめて伸ばすしつけ

人間が大好きになるような、しつけの練習をしてあげましょう。

ほめてしつける「陽性強化」なら、飼い主さんと愛犬の信頼関係も生まれます。体罰を与えても、いじめられるとしか理解できない場合が多いです。



名前を呼べば「な～に？」と振り向ける関係に。

犬は、他の犬など気になるものをじっと見る習性があります。声をかけることで意識を飼い主さんの方へ向けることができれば、問題行動に発展しにくくなります。



もちろん健康管理・病気予防も大切。

狂犬病予防注射は法律で年1回接種するよう義務付けられています。その他の混合ワクチンやかかりつけの獣医師さんと相談して適切な接種を。ブラッシングなど衛生面の管理も忘れずに。

しつけは「問題行動が起きてから」「大きくなってから」ではなく、一緒に暮らしはじめてスグに取り組むことが大切です。

ここもポイント！



CAPP活動に参加する「しつけインストラクター」さんに聞きました！

～絆を結ぶ第一歩～ 名前を大好きになる方法

「名前を呼ばれたら、ごほうびが口に入ってきて嬉しい！」と愛犬に気づかせてあげましょう。愛犬を叱る時は名前を呼ばず、ほめる時に呼んであげるのもポイントです。

JAHA認定
家庭犬しつけインストラクター
利岡先生&ブーニャ(左)、
大井先生&ジーク(右)



犬についての正しい知識を身につけよう



利岡先生

犬は人間と異なる習性や行動を持つ動物なので、彼らへの正しい知識が必要です。知識があれば、叱ったりせず、困った行動が出る前に予防対策が立てられ、犬をほめることができる「信頼される飼い主さん」に近づけますよ。本やしつけ方教室などで、身につけてみてはいかがでしょうか。

4 愛犬の名前を読んで、すぐにごほうびを口に入れてあげてください。



これを5回繰り返し！

最初は口に入れる感じがOK

【※1】 おやつは1日の必要摂取カロリーの10%までに。楽しくっておやつを与えすぎにご注意を。小さく切って与えてあげましょう。
【※2】 しつけへの悩みは動物病院か、もしくはしつけインストラクターにご相談ください。

3 リードを持つ手の中に、ごほうびのおやつを5粒(※1)持ってください。



手はお皿がわりだと思ってください。おやつが一番大好きなものを。

2 飼い主さんは電信柱になったつもりで立ちましょう



愛犬の顔は見ず、飛びついたり、ウロウロしていても無視してください。

1 室内でリードと首輪を着けましょう。



リードは、ごほうびを与える時に手が届く範囲の長さを持ってください。

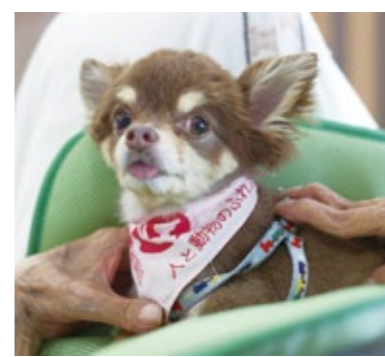
CAPP委員長・戸塚先生にインタビュー

人と動物の絆には無限の可能性が 있습니다



CAPP委員会委員長
戸塚裕久先生
ダクタリ動物病院焼津病院 院長。診療方針としても「人と動物の絆」を大切にしています。

私がCAPP活動をはじめたきっかけは、1985年に米国ハワイ州立大教授だったアレン・ミヤハラ先生による「ヒューマン・アニマル・ボンド(人と動物の絆)」についての講演を聞いたこと。すぐに地元でアニマルセラピー活動を試みましたが、当時は認知度が低く、難しい状況でした。その後、知人からの相談で1993年に沼津市内の施設で活動することになったのが最初です。
スタート時は、何もかもが手探りでした。私たちも勉強不足なところがありましたし、施設のスタッフさんにとりどのように活動を理解してもらえば良いかも悩みました。今では、各施設のスタッフさんもきめ細かく協力してくださるようになります。その頃の経験のおかげで、今の安全で快適な活動に発展できたのだと思います。



目が見えない方も、犬の柔らかな肌触りに癒されるそう。

約20年かけて
安全で幸せな活動に



足に「お手」でタッチする姿に大盛り上がり。

動物がもたらす影響はいつも想像以上です。

人と動物には絆があり、人間には「動物が好き」というDNAが組み込まれています。ふわふわと暖かい犬や猫と人間を安心させてくれるんですよ。
高齢者さん達も犬猫の違いはあれど、その感覚は同じだと思えます。また、現場では想像以上の驚きや発見があります。高齢者施設でのことですが、活動中は優しく動物にふれてきた高齢者さんが、実は午前中はとても機嫌が悪かったとか。動物に会えると分かって、落ち着いたそうなんです。動物がもたらす元気や活力に、あらためて感動しました。

一方、愛犬は飼い主さん以外の人に触れられる機会が増えることで「私の飼い主さんはこの人」という意識が強くなるようです。飼い主さんも活動の中で愛犬のしつかり

している面を発見できたりと、双方の関係づくりに良い影響が生まれています。
活動に参加するには「犬の適性」を重視します。「ほめるしつけ」で参加できるようにする子もいますが、「動物達に苦痛や負担のない楽しい活動」である必要があるからです。「うちの子はどうかな？」という方は適性セルフチェックを参考にしてみてください。

飼い主さんとの絆が強まるきっかけにも。

CAPP適性セルフチェック

- 人間大好き!人見知りしない
- 他の動物たちとも仲良くできる(こわがったり、攻撃したりしない)
- 見慣れないものや、大きな音なども大丈夫
- おすわり、マテなどの基本的なしつけができていて、飼い主が確実にコントロールできる(犬の場合)
- 健康管理はバッチリ(定期健診、予防)
- 生後8ヵ月以上

すべてクリアしていたら、活動への適性はかなり高いでしょう。チェックの数が少ない場合は、無理に参加することが動物にとってストレスになります。飼い主さんだけの参加も考えてみましょう。

※実際の参加については活動先のチームリーダー、もしくは、JAHA事務局へご相談ください。



戸塚先生の愛猫グーちゃん。

CAPP活動に参加するには

- 1 JAHAに問い合わせ 近くの活動連絡先や活動予定などを紹介します。
- 2 最寄りの活動を見学 実際の活動の様子や施設の人の笑顔にふれてみましょう。
- 3 動物の参加準備 ・適性チェック(各チームリーダーに相談)
・動物の健康診断書を提出
- 4 活動への参加 愛犬の様子をみながら少しずつ参加します。

お問合せ ☎03-3235-3281 (受付時間/月~金・13:00~17:00)
<http://www.jaha.or.jp>

JAHA 公益社団法人 日本動物病院福祉協会